2022年度　編入学・転入学選抜試験問題

小論文

実施日　2021年11月20日（土）

注意事項

１．指示があるまで問題冊子は開かないでください。
２．問題は１ページです。
３．答えは、指示された字数で別紙の解答用紙に記入してください。

札幌大谷大学社会学部地域社会学科

問題

「家族」についての理解を深めるために、実際に子育て中の家庭を訪ねて体験談などを聞く「家族留学」という試みが提案されている。あなたは「家族」を学ぶ機会や将来の自分の「家族」についてどのように考えるか。次の新聞記事を参考にして、800字程度で述べなさい。なお、文章は常体（である体）、横書きとする。

仕事と家庭の両立は。家族内の家事の分担は。出産はいつ――。人生に大きな影響を与える「家族」に、漠然とした将来不安を感じる若者も多い。そんな中、様々な家族と直接交わることで具体的なイメージを抱いてもらおうと、家族への「留学」という仕組みを作った人がいる。記者（27）が大学 3 年生の猪又玲衣さん（21）、片野直人さん（20）と共に話を聞いた。

進路や仕事について考える教育はあるのに、家族や子育てについて体験談を聞いて将来をイメージする機会が少ないのはなぜ――。

新居日南恵（におりひなえ）さん（27）は大学生のころ、そんな疑問を抱いていたという。子どもに大きな影響を与える家族。色々なあり方を知った上で家族を作り上げられたら、子どもや社会のためになるのでは。そう考え、若者が子育て中の家庭を訪ね、家族や子育てについて考える機会をつくる「家族留学」を 2015 年から始めた。現在は、家族留学を運営する団体「manma」の理事などを務める。

家族留学には、若い世代を中心にこれまでで延べ 400 人以上が参加した。参加者は実際の家庭を訪れ、共に一日を過ごす。30～40 代を中心に、500 近い家庭が受け入れてきた。

新居さん自身も様々な家族と知り合った。「子どもが生まれた後にとっぴな挑戦はできないだろう」と思っていたが、「出産後に医師の道を目指し始めた妻と、支える夫」という家族にも出会った。「望めばいくらでも家族の形はあるのだと知った」。家族留学を始めて6年。当初は「留学生」の9割が女性だったが、最近は男性が3～4割と増えている。

ただ、新居さんは「仕事と家庭の両立は不可能だと思う」といった声を大学生から聞くことも多いという。片野さんはうなずきながら「夢は、かっこいいお父さんになること。ただ、外（仕事）でも活躍しようと考えると、子育てと仕事の両立への不安があります」。猪又さんは「自分が仮に育休を取ったとしても、両立できるか不安です」。そろって「不安」を口にした。

新居さんは、当事者となる若い世代の声が、政策に届きにくいと感じている。内閣府が主催する若者の結婚や子育てについての検討会に参加したこともあるが、メンバーのうち 20 代や 30 代はごくわずか。「当事者不在では」と疑問を抱くこともあった。国全体で子育て世代や将来世代に投資するという、強いメッセージが必要だと考えている。

（後略）

出典：『朝日新聞』2021年10月20日（朝刊）「家族は様々　知る『一日留学』」

（なお、設問の都合上、原文を一部省略した部分がある）

2022年度札幌大谷大学社会学部地域社会学科　編入学・転入学選抜
小論文　解答例

　若い世代が子育て中の家族を訪ね歩く「家族留学」という発想に驚いた。「子育ては大変」、「仕事との両立は難しい」など、結婚して子どもを育てることの不安ばかりが指摘されているが、実際はどうなのだろうか。いろいろな家族の子育ての体験などを聞くことができれば、それまで自分が持っていた家族のイメージが一変することもあるかもしれない。

　現代の日本の大きな課題の一つは少子化である。私は「結婚」や「新しい家族を持つこと」に、夢や希望がまったくないわけではない。でも、私を含めた若い世代にとっては、結婚や子育ては「当たり前」のことでもないし、気楽に選べることでもないと思う。どうしても慎重になってしまうのだ。少子化対策を考えるなら、まず私たちの不安を解消してほしい。

　その意味で、「家族留学」は私たちの誤解や不安を解消するための有効な試みになりそうである。「家族留学」の機会が与えられたなら、是非参加したい。考えてみると、私は自分の育ってきた家族のことならわかるが、よその家族についてはよく知らない。食事のことや家族の行事、会話の仕方など、それぞれの家族には特有の習慣があるのだろう。子育て環境についても、親の世代と自分が親になって経験する子育てとはずいぶんと違っているだろう。そうだとしたら、自分と世代の近い人たちの家族のあり方を学んでみたい。よく知らないのに何となくわかっていると思っていたり、あるいは理由もなく不安に感じて迷うくらいなら、実際に体験してみることは重要だと思う。

　多様な家族のありかた、それぞれの家族の知恵や工夫などに接したら、私たちの将来の選択肢が増えるのではないだろうか。「家族留学」をきっかけに、「家族はこうあるべき」という思い込みから離れて、子育てをもっと自由で豊かなものだと感じることができたなら、それは希望につながると思う。